
【NITEケミマガ】NITE化学物質管理関連情報 第164号

2013/09/25配信

本メールマガジン【NITEケミマガ】(NITE化学物質管理関連情報)は、化学物質管理に関連するサイトの新着情報、報道発表情報等を配信するサービスです。

原則として、毎週水曜日に配信いたします。

なお、本メールマガジンは平成25年度独立行政法人製品評価技術基盤機構委託業務として、みずほ情報総研株式会社に記事作成を委託しております。

ご連絡先: chem-manage@nite.go.jp

----- 9/18~9/25までの更新情報 -----

●官報情報

【2013/09/19】

- ・農林水産省告示「農薬を登録した件(農林水産二四四九~二四五一)」

→ <http://kanpou.npb.go.jp/20130919/20130919h06134/20130919h061340004f.html>

標記告示が掲載された。

【2013/09/19】

- ・農林水産省告示「農薬を再登録した件(農林水産二四五二)」

→ <http://kanpou.npb.go.jp/20130919/20130919h06134/20130919h061340005f.html>

標記告示が掲載された。

●経済産業省

【2013/09/18】

- ・第1回「石油精製物質等の新たな化学物質規制に必要な国際先導的有害性試験法の開発(反復投与毒性試験と遺伝子発現変動による発がん性等発現可能性情報の取得手法の開発)」中間評価検討会の開催案内を掲載しました。

→ <https://www.meti.go.jp/interface/honsho/committee/index.cgi/committee/3401>

10月7日に標記会合が開催される。議題は、

- (1) 検討会の公開について
- (2) 評価の実施方法と評価報告書の構成について
- (3) プロジェクトの概要について(事業目的・目標・全体成果・マネジメ

ント等)

(4) プロジェクトの概要について(成果詳細 発がん性等)

(5) プロジェクトの概要について(成果詳細 神経毒性)(※非公開)

(6) 総合討論

(7) 今後の評価の進め方について

など。

【2013/09/20】

・ 化学物質規制と我が国企業のアジア展開に関する研究会第2回情報共有ワーキンググループ 開催案内

→ <https://www.meti.go.jp/interface/honsho/committee/index.cgi/committee/3581>

10月3日に標記会合が開催される。議題は、

(1) 新たな情報伝達スキームの基本的考え方について

(2) 今後の検討課題について

など。

●厚生労働省

【2013/09/17】

・ 第1回建築物の解体等における石綿ばく露防止対策等技術的検討のための専門家会議 議事録

→ <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000023058.html>

8月23日に開催された標記会合の議事録が掲載された。議題は、

(1) 石綿ばく露防止対策等について

(2) 今後の進め方について

など。

【2013/09/18】

・ 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会添加物部会 議事録

→ <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000015913.html>

5月31日に開催された標記会合の議事録が掲載された。議題は、イソプロパノールの使用基準等の改正について、など。

【2013/09/18】

・ 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会添加物部会 議事録

→ <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000022651.html>

6月21日に開催された標記会合の議事録が掲載された。議題は、ポリビニルピロリドンの新規指定の可否等について、など。

【2013/09/20】

・建築物における衛生的環境の確保に関する法律施行規則の一部改正案に係る意見の募集について

→ <http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495130124&Mode=0>

9月20日から10月21日までの間、標記の意見募集が行われている。飲料水の水質検査項目に、「亜硝酸態窒素」の項目追加するにあたって実施されるもの。

【2013/09/20】

・食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法の一部改正について(平成25年9月19日食安発0919第1号)

→ <http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T130920I0010.pdf>

標記通知が掲載された。

●環境省

【2013/09/17】

・『日本人における化学物質のばく露量について』パンフレットの作成について(お知らせ)

→ <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17137>

標記資料が掲載された。平成24年度「化学物質の人への曝露量モニタリング調査」の結果を取りまとめたもの。内容(調査結果)は、

○ダイオキシン類調査結果

・血液中の濃度は他の調査結果と同じ程度

・食事経由のダイオキシン類摂取量では耐容一日摂取量(TDI)を超過した人はいない

○重金属類調査結果

・血液中の総水銀濃度は他の調査結果と同じ程度

・食事経由のメチル水銀とカドミウム摂取量では耐容摂取量を超過した人はいない

など。

【2013/09/20】

・公共用水域水質環境基準、地下水環境基準、土壤環境基準及び排水基準等に係る告示の一部改正案に対する意見の募集(パブリックコメント)について (お知らせ)

→ <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=17155>

9月20日から10月21日までの間、標記の意見募集が行われている。公定分析法の告示改正が提案されている物質は、

- ・フェノール類
- ・ふっ素化合物
- ・シアン化合物
- ・アンモニウム化合物
- ・亜硝酸化合物及び硝酸化合物
- ・全窒素
- ・全りん
- ・銅
- ・亜鉛
- ・鉛
- ・カドミウム
- ・鉄
- ・砒素
- ・六価クロム

●内閣府食品安全委員会

【2013/09/17】

・「農薬専門調査会評価第二部会(第28回)(非公開)の会合結果」を掲載

→ <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20130913no1>

9月13日に開催された標記会合の配布資料が掲載された。議題は、農薬(アミノエトキシビニルグリシン)の食品健康影響評価について、など。

【2013/09/18】

・「農薬専門調査会評価第四部会(第30回)(非公開)の会合結果」を掲載

→ <http://www.fsc.go.jp/fsciis/meetingMaterial/show/kai20130917no1>

9月17日に開催された標記会合の配布資料が掲載された。議題は、農薬(プロピザミド)の食品健康影響評価について、など。

●国立医薬品食品衛生研究所 (NIHS)

【2013/09/18】

- ・食品安全情報(化学物質) No. 19 (2013. 09. 18)

→ <http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/2013/foodinfo201319c.pdf>

標記資料が掲載された。食品の安全性に関する国際機関や各国公的機関等の最新情報が紹介されている。

●農林水産消費安全技術センター (FAMIC)

【2013/09/19】

- ・[メールマガジン]バックナンバーに第501号を掲載しました。

→ http://www.famic.go.jp/mail_magazine/backnumbers/No501.htm

標記資料が掲載された。

●日本化学工業協会 (JCIA)

【2013/09/20】

- ・「日化協 アニュアルレポート2013」刊行

→ <http://www.nikkakyo.org/news42-page>

標記資料が掲載された。内容は、

- ・地球の未来を化学がつくる
- ・特集「時代を支えてきた化学」-未来へ続く化学技術年表-
- ・社会に貢献する化学産業
- ・日化協の活動「レスポンシブル・ケア(RC)」
- ・日化協の活動「安全・環境」

など。

●中小企業基盤整備機構

【2013/09/20】

- ・[J-Net21]REACH Q.402:欧州バイオサイド規則におけるバイオサイド物質、バイオサイド製品、バイオサイド処理成形品の区別について

→ <http://j-net21.smrj.go.jp/well/reach/qa/402.html>

標記Q&Aが掲載された。

【2013/09/20】

- ・ [J-Net21]RoHS Q. 392:RoHS(II)における「監視及び制御機器」、「産業用監視及び制御機器」について
- <http://j-net21.smrj.go.jp/well/rohs/qa/392.html>

標記Q&Aが掲載された。

【2013/09/20】

- ・ [J-Net21]REACH コラム:アジアの化学物質規制法(3)
- <http://j-net21.smrj.go.jp/well/reach/column/130920.html>

標記コラムが掲載された。

●日本学会会議

【2013/09/19】

- ・ 公開シンポジウム「社会が受け入れられるリスクとは何か」 配布資料
- <http://www.scj.go.jp/ja/event/130905.html>

9月5日に開催された標記シンポジウムの配布資料が掲載された。内容は、

- ・ 安全目標の構築
 - ・ しきい値なしモデルとリスク受容の課題
- など。
-

●日本貿易振興機構 (JETRO)

【2013/09/13】

- ・ 化学物質製品環境規制がサプライチェーンを通じてアジア途上国企業に与える影響
- <http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/PolicyBrief/Ajiken/pdf/020.pdf>

標記資料が掲載された。

●神奈川県科学技術アカデミー

【2013/09/18】

・ KAST教育講座 「化学物質の有害性評価」 コース-初心者のための基礎から学ぶ病理学的評価-

→ http://www.newkast.or.jp/kyouiku/edu_h25/ed25_seminar_17.html

下記の要領で標記セミナーが開催される。

日時:平成25年12月4日(水)、平成26年1月22日(水)、2月13日(木)、3月5日(水)

場所:かながわサイエンスパーク(KSP) 内講義室(神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1)

定員:15名(先着順)

申込期限:11月8日(金)

内容:

- ・ オリエンテーションおよび有害性評価の基礎等(12月4日)
- ・ 各論1: 消化器(胃や十二指腸から門脈を通して吸収される物質と吸収されずに糞便排泄される物質の障害)(1月22日)
- ・ 各論2: 肝臓(門脈系から肝臓に入った物質の類洞・肝細胞での分解・解毒・代謝過程における障害)(2月13日)
- ・ 各論3: 腎臓・膀胱(心肺循環から大循環に入った物質が腎臓・膀胱で再吸収・尿排泄される際の障害)(3月5日)

● 経済協力開発機構(OECD)

【2013/09/19】

・ First release of Adverse Outcome Pathway Wiki

→

<http://www.oecd.org/env/ehs/testing/adverse-outcome-pathways-molecular-screening-and-toxicogenomics.htm>

OECDは、毒性の原因となる分子レベルの開始反応から細胞、臓器、生体レベルでの有害性発現機構を考慮した手法開発プログラム(OECD's AOP Development programme)の情報収集、管理、共有するためのITツール(AOP Wiki)のベータ版を公開した。

【2013/09/20】

・ Synthesis paper on per and polyfluorinated chemicals

→

<http://www.oecd.org/env/ehs/risk-management/synthesispaperonperandpolyunsaturatedchemicalspfcs.htm>

OECDは、アルキル基を有する過フッ素化合物(PFASs)等に関する、主要用途、環境中運命から人健康及び環境影響、代替物質、規制アプローチまでを記述した概要レポートを公表した。

●欧州化学品庁 (ECHA)

【2013/09/06】

- Estimating the abatement costs of hazardous chemicals - A review of the results of six case studies

→ http://www.echa.europa.eu/documents/10162/13580/abatement+costs_report_2013_en.pdf

ECHAは、有害化学物質の利用、環境への放出及び暴露を軽減するために必要なコストに関するケーススタディについて取りまとめたレポートを公表した。対象物質は、

- 繊維製品の界面活性剤に使用されるノニルフェノール及びその化合物
- 可塑剤に使用されるフタル酸エステル(DEHP、DBP、BBP、DIBP)
- 芳香剤及びトイレ用消臭剤に使用される1,4-ジクロロベンゼン
- ショットガンのペレットに使用される鉛
- 難燃剤に使用されるヘキサブロモシクロドデカン(HBCDD)
- 樹脂や粘着剤の硬化剤等に使用される4,4'-メチレンジアニリン(MAD)

【2013/09/17】

- RAC concludes on six scientific opinions

→

http://echa.europa.eu/view-article/-/journal_content/title/rac-concludes-on-six-scientific-opinions

ECHAのリスク評価専門委員会(RAC)は、以下6物質の調和化された分類・表示に関する科学的意見を採択した。

- 2-tert-ブチル-5-(4-tert-ブチルベンジルチオ)-4-クロロ-3(2H)-ピリダジノン(Pyridaben)
- Dodemorph
- Dodemorph acetate
- イミダゾール(Imidazole)
- Spirotetramat
- 2-エチルオキシラン(1,2-Epoxybutane)

【2013/09/17】

- Draft update of the Guidance for the preparation of an Annex XV dossier on the identification of substances of very high concern sent to MSC

→

http://echa.europa.eu/documents/10162/13643/annex_xv_draft_guidance_for_svhc_identification_en.pdf

SVHCの特定のための附属書XV(ドシエ)の準備に関するガイダンス(改訂草案)を加盟国委員会(MSC)に送付した。

【2013/09/17】

• Restrictions under consideration

→ <http://echa.europa.eu/restrictions-under-consideration>

ECHAは、REACH規則に基づき、以下2物質の制限提案に関するパブリックコンサルテーションを開始した。コメントの提出期限は、2014年3月18日。

• 1-メチル-2-ピロリドン(CAS:872-50-4)

• Nonylphenol, branched and linear and Nonylphenol, branched and linear, ethoxylated (CASなし)

【2013/09/20】

• ECHA calls for information to avoid unnecessary animal testing

→ <http://echa.europa.eu/information-on-chemicals/testing-proposals/current>

ECHAは、不必要な動物試験を回避するため、以下3物質に関する情報の提出を要請した。コメントの提出期限は、11月4日。

• Reaction product of Crude sludge and Calcium oxide. Crude sludge is the mixture of by-products of petroleum hydrocarbons refining (especially Total petroleum hydrocarbons, Polycyclic aromatic hydrocarbons, acid-refined heavy petroleum distillates). The Crude sludge is neutralised by calcium oxide in the ratio 80:20. The maturing process proceeds under ambient conditions and takes for at least 3 days.

Subsequently, the reaction product is processed mechanically (CASなし)

• Nonanoic acid (branched), 2-oxiranylmethyl ester (CASなし)

• 硝酸ビスマス(CAS:10361-44-1)

● 米国環境保護庁 (US EPA)

【2013/09/19】

• EPA has opened a docket for comments for Registration of the Prohydrojasmon (PDJ); propyl-3-oxo-2-pentylcyclo-pentylacetate

→

<http://www.regulations.gov/contentStreamer?objectId=090000648142ac3b&disposition=attachment&contentType=pdf>

米国EPAは、Cyclopentaneacetic acid, 3-oxo-2-pentyl-, propyl ester
を農薬として登録することについてパブリックコメントを実施している。
コメントの提出期限は、10月3日。

【2013/09/20】

・EPA announced the release of the final IRIS Summary for 1,4-Dioxane and a new accompanying Toxicological Review that have been added to the IRIS website. The Interagency Science Discussion Draft of the 1,4-Dioxane IRIS assessment was also released.

・TOXICOLOGICAL REVIEW OF 1,4-DIOXANE

→ <http://www.epa.gov/iris/toxreviews/0326tr.pdf>

・IRIS Summary for 1,4-Dioxane

→ <http://www.epa.gov/iris/subst/0326.htm>

・IRIS Toxicological Review of 1,4-Dioxane (with Inhalation Update) (Interagency Science Discussion Draft)

→ http://cfpub.epa.gov/ncea/iris_drafts/recordisplay.cfm?deid=247493

米国EPAは、IRISにおける1,4-ジオキサン(CAS:123-91-1)の毒性評価のレビュー結果及び最終概要レポートを公表した。

●アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)

【2013/09/17】

・Ver4.1ツール対応のAISクイックマニュアル(日・英・中)を公開しております

→ <http://www.jamp-info.com/information/20130918-1>

標記資料が掲載された。

【2013/09/19】

・JAMPアジア普及に関する意見交換会の開催について

→ <http://www.jamp-info.com/information/20130819>

10月10日に標記会合が開催される。

●セミナー情報

【2013/09/18】

- ・【神奈川県科学技術アカデミー】KAST教育講座 「化学物質の有害性評価」コース-初心者のための基礎から学ぶ病理学的評価-
- http://www.newkast.or.jp/kyouiku/edu_h25/ed25_seminar_17.html

下記の要領で標記セミナーが開催される。

日時:平成25年12月4日(水)、平成26年1月22日(水)、2月13日(木)、3月5日(水)

場所:かながわサイエンスパーク(KSP) 内講義室(神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1)

定員:15名(先着順)

申込期限:11月8日(金)

内容:

- ・オリエンテーションおよび有害性評価の基礎等(12月4日)
- ・各論1:消化器(胃や十二指腸から門脈を通して吸収される物質と吸収されずに糞便排泄される物質の障害)(1月22日)
- ・各論2:肝臓(門脈系から肝臓に入った物質の類洞・肝細胞での分解・解毒・代謝過程における障害)(2月13日)
- ・各論3:腎臓・膀胱(心肺循環から大循環に入った物質が腎臓・膀胱で再吸収・尿排泄される際の障害)(3月5日)

※ 本セミナー情報は、参加費無料のものに限定しております。

【NITEケミマガ】をご利用いただきまして、ありがとうございます。

- 【NITEケミマガ】のバックナンバーは、下記HPをご覧ください。

→ <http://www.safe.nite.go.jp/shiryo/chemimaga.html>

- 配信停止をご希望の方は、以下のURLをクリックして下さい。

→ http://www.safe.nite.go.jp/mailmagazine/chemmail_del.html

- 配信先e-mailアドレスの変更をご希望の方は、以下のURLをクリックして配信停止手続をしていただき、新たに配信登録をお願いします。

配信停止→ http://www.safe.nite.go.jp/mailmagazine/chemmail_del.html

配信登録→ http://www.safe.nite.go.jp/mailmagazine/chemmail_01.html

- ご意見・ご感想・ご要望等は、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

chem-manage@nite.go.jp

- ・【NITEケミマガ】の転送、複写は、読者の組織内に対し全文の転送、複写をする場合に限り、自由に行って頂いて構いません。
- ・組織外への公表・転送、商用利用等につきましては、以下のメールアドレスまでお問い合わせください。
→ chem-manage@nite.go.jp
- ・発行元：独立行政法人製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター
- ・記事作成元：みずほ情報総研(株) 環境エネルギー第1部 環境リスクチーム